

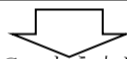
令和7年度 府中町立府中南小学校 学校自己評価表【改訂版】

学校教育目標	自分が学ぶ みんなと学ぶ かしこく やさしく たくましく	経営理念 ミッション・ ビジョン	「共育」子ども大人も共に育つ学校・家庭・地域 1 共に学ぶ子ども…自ら学ぶ子・自分や友達を大切に育つ子・根気強くチャレンジする子 2 共に育つ教職員…子どもと共に自ら育つ教職員・出会いを大切に育つ教職員 3 地域と共に育つ学校…自分が好き 友達が好き (児童) 子どもと共に学び合おう (保護者) 学校と共に子どもを育てよう (地域)
--------	---------------------------------	------------------------	--

ビジョン (中期経営目標) 実現に向けての現状 (進捗状況) と今年度の位置付け	不登校や発達に課題のある児童の実態から、組織的な生徒指導体制の推進を図ると共に、学校とは「学びを通して人をつなぎ共に育つ場である」ことを家庭・地域と再確認しつつ、「命の教育」を中心として各部の取組を横断的につなげ、充実させていく。
--	---

評価計画 (中期経営目標を設定して2年目)

A 中期 (3年間) 経営目標	B 短期 (今年度) 経営目標	C 目標達成のための方策	D 評価指標	目標値 (%)	E 評価結果			
					(1 0) 月		(2) 月	
					達成値	評価	達成値	評価
a 主体的に学び続ける児童の育成	・自ら課題を見つけ、解決しようとする児童の育成	・主体的な学びを促すための「自己内対話」と「評言」を取り入れた授業づくり ・新たな課題を見つけるための「振り返り」の充実 ・基礎学力の定着を図るための授業力の向上	自己内対話を促す評言を意識した授業・単元づくりに取り組む教師	90%以上	97.0	A	100	A
			自分の考えと比べながら聞いたり考えたりして振り返りを書いた児童	80%以上	88.1	A	89.7	A
			算数科の単元末テストで、正答率70%以上の児童	85%以上	83.1	A	83.1	A
b 読書活動の推進・充実	・自分で読みたい本を選んで読書しようとする児童の育成	・読書祭りを中心とした強化月間の設定 (委員会活動とのコラボレーション) ・読書活動を取り入れた単元づくり ・リプロカードの効果的活用	自分で読みたい本を選んで読書ができる児童	80%以上	91.9	A	91.6	A
			学期に1回以上、読書活動を取り入れた単元づくりを行った教師	90%以上	89.6	A	100	A
c 生徒指導体制の確立	・教職員による統一した指導 (当たり前の文化) ・お互いの違いを認め合い、お互いを大切にする児童の育成	・異年齢や同年齢集団による協調的な関わり場の設定 (質の向上) ・各学年の取組、成果を共有する場の設定 (意識の向上) ・生活目標の普及と振り返りの充実	「たてわりで遊んだり活動したりするのは楽しい」と答えた児童	85%以上	94.8	A	95.4	A
			「同学年の仲間と学んだり、一緒に何か活動したりするのは楽しい」と答えた児童	85%以上	96.0	A	95.1	A
			「生活目標 (生徒指導に関わる内容) を意識することができている」と答えた児童	80%以上	81.9	A	76.8	A
d 体づくりの推進・充実	・運動意欲の向上 ・食育の充実	・児童の運動に対する意欲、興味関心向上の取組 (委員会活動とのコラボレーション) ・「バランスの良い食事」を理解する授業の実施 ・給食試食会の協働実施 (委員会活動のPTAとのコラボレーション)	体を動かすことは楽しいと感じる児童	85%以上	92.1	A	93.1	A
			バランスの良い食事を心がける児童	90%以上	91.8	A	93.0	A
e 信頼される学校づくり (コミュニティ・スクール) の推進・充実	・「共育」活動の充実	・サポーター活動の発信、充実 ・地域と教職員の協働した取組の推進 (委員会活動とのコラボレーション) (授業や放課後学習支援) ・CSに関する職員研修の実施 (CS事務局やサポーターとのコラボレーション) ・働き方改革の推進 (会議の効率的な運営) (業務のスクラップ&ビルド) ・子どもと向き合う時間の確保 (ノー宿題デー) (授業時数短縮)	教育活動の満足度 (児童・保護者)	90%以上	94.7 95.4	A	93.8 95.2	A
			「子どもと向き合う時間の確保ができている」と答えた教職員	80%以上	80.5	A	92.7	A

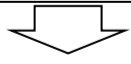


評価基準…A : 目標達成 (95%~100%) B : おおむね達成 (80%~94%) C : もう少し (60%~79%) D : できていない (59%以下)
目標値を100%として、達成率を計算する。「例 目標値85%→アンケート結果92% →目標値を超えているので評価はA」

F 結果の分析・解釈 (中間 10月) ○…成果 △…課題 ★…下半期の改善方策				
<p><a 主体的に学び続ける児童の育成></p> <p>○新たに「授業力向上推進部」を組織した。自己内対話や「評言」について研究を深める「ひょうげん部」、育てたい資質・能力などから単元・授業を俯瞰して捉え探究的な学びを展開する「探究部」に分かれて研究を進めることで、学校全体の研究の方向性が焦点化され、授業改善につながった。</p> <p>○各部から授業提案を行うことで、授業のモデルとなったり校内で共通の話題として交流したりすることにつながり、児童の「自己内対話」を促したり、「単元・授業づくり」につながりつつある。</p> <p>△どのよう「評言」が、子どもたちの自己内対話を促すことにつながったかが不明確な点もある。</p> <p>★部会の中で「評言」を交流していく。</p> <p>○振り返りの目的を確認したり、児童と話し合い「振り返りレシピ」を作成したりしたことにより、振り返りの充実につながった。</p> <p>△振り返りへの抵抗感が下がってきているので、お互いの振り返りを読み、モデルとするなどしてさらなる質の充実につなげる。</p> <p>△振り返りを行ったことが、充実感・達成感、次時へつなげることができるよう、教師の「振り返り」の活用の仕方について考えを深めていく必要がある。</p> <p>★モデルとなる振り返りを示すなどして、書けない子が「こんなことを書けばいいのか」と動き出せる支援を行っている。</p> <p>★条件を付けて振り返りを書く活動を行い、質と量の向上を進めていく。</p> <p>★1年生も平仮名などを学習したので、文章での振り返りをまとめることに取り組む。</p> <p>○南っ子タイムで基礎学力の計算</p>	<p><b 読書活動の推進・充実></p> <p>○肯定的評価が多い。</p> <p>○図書委員会の活動が効果的だった。</p> <p>→1 か月に1度、「3冊借りれる日」を設定し、大好評だった。</p> <p>○国語の学習で関連図書を紹介したり、教科書に載っている本を教室に置いたりしておくことで、手に取る児童が増えている。並行読書で教科書とのつながりが大きくなっている。</p> <p>○委員会の児童が本の読み聞かせをするために自主的に練習する姿が見られた。</p> <p>○児童会執行部の活動 (平和展) とのコラボが有効であった。</p> <p>(読み聞かせ、平和の本に関心)</p> <p>○読み聞かせの時間を楽しむ児童が多い。長期休業中には各教室の学級文庫の入れ替えを行ってくださったたり、寄贈本を募って第二図書室に置いたりして下さるなど、サポーターの方の支えが大きいと感じている。</p> <p>○学級の係活動で本を読み聞かせする等、学級の中での読書活動が広がっている。</p> <p>○タブレット端末を用いた読書を行っている学年もある。</p> <p>○図書年間活動計画を職員室に掲示したことが、教員の意識づけにつながった。</p> <p>△図書室が遠い学年は利用しにくい。</p> <p>△高学年は委員会活動等で読書をする時間が取りにくかった。</p> <p>★宿題に読書を取り入れ、家庭でも読書をする習慣をつけるのはどうか。</p> <p>★引き続き図書委員会の活動の</p>	<p><c 生徒指導体制の確立></p> <p>【異年齢による協調的な関わり】</p> <p>○きょうだい学年による縦割り掃除を計画的に行い、共に活動することで関係性を深めている。上学年の姿が下学年の手本となり、上学年にとっては自覚につながっている。</p> <p>○執行部を中心に児童が主体となって、縦割り遊びや平和集会を計画・運営したことで活動が充実した。縦割り交流を楽しみにしたり高学年を頼りにしたりする様子が多く見られた。</p> <p>○生活目標動画や平和動画を通してどの学年も素直にメッセージを受け取り、「6年生が言っていたから頑張ろう」と意識づけにつながっていた。</p> <p>△運動会練習等において近接学年で見合う活動を行っていない学年があった。学年間で交流する機会を増やし、憧れや自覚につなげていくために、まず教職員間での意識共有が必要。</p> <p>△3・4年生、4・5年生の関わりが少ないため、縦割り掃除等を意図的に仕組む必要がある。</p> <p>★引き続き執行部を中心にしながら、児童主体の活動を計画的に進めるとともに、活動の目的を児童も教職員も明確にして活動を展開する。</p> <p>【同学年による協調的な関わり】</p> <p>○学校教育目標を受けて学年目標や学級目標などを設定し、児童の目指す方向性を明確にして学年内で共有できている。</p> <p>○行事や生活科・総合的な学習の時間などを中心に、クラスを超えて学年間で交流を深めることで、活動が深まり、楽しさにつながっている。</p> <p>△学年で伸ばそうと指導したことを各学級でも授業場面等を通して継続的に取り組んでいく意識が教員間に必要だった。</p> <p>★各学年の取り組みに留めず、学校全体の取り組みに広げていきたい。また、まず全教職員が目標や目的を共通理解し意図的な指導を行っているよ</p>	<p><d 体づくりの推進・充実></p> <p>①運動意欲の向上</p> <p>○運動会や水泳、体力テスト等では、目標が明確で、達成感を感じることができ、肯定的評価につながった。</p> <p>○各学級で全員遊びの時間を設けたり、教師が率先して児童とともに外遊びをしたりするなどして、体を動かして遊ぶ機会を作ったことで、休憩時間に進んで外に行く児童が多く見られた。</p> <p>△否定的評価をする児童が8%程度おり、運動が苦手な児童が固定している。気温が高く、熱中症の危険から運動を避ける傾向も見られた。</p> <p>★体育委員会の活動として、運動チャレンジを行い、手軽な体力づくりの方法や体を動かす楽しさを全校に伝えていく。</p> <p>★体づくり運動など、楽しく体を動かせる運動のアイデアを紹介し、体育の授業改善を図る。</p> <p>②食育の充実</p> <p>○各担任や栄養教諭が、給食時間に、その日の献立や食材にちなんだテーマの話をしたり、バランスよく食べるように呼び掛けたりすることで、苦手な物でも少し食べてみようとする児童が増えてきている。</p> <p>○各学年、栄養教諭と連携して食育の授業を行ったことで、食への興味関心や理解につなげることができた。</p> <p>△苦手な物でも食べた方がいいという意識はあっても、食べられない児童や減らしている児童が負い目を感じ、否定的な評価につながっている。</p> <p>★引き続き、食育や給食指導を充実させていくとともに、給食委員会の活動で、バランスよく食べることや残さず感謝して食べることの大切さについて全校に啓発する。</p> <p>★自分に合った量を食べることに対して肯定的な評価をし、少しでも</p>	<p><e 信頼される学校づくり></p> <p>【教育活動の満足度】</p> <p>○PTA総会で、サポーター活動についてコミュニティ事務局の方が説明。今年度はサポーターさんにリーフレットをリニューアルしてもらい、全家庭配付した。数名の方が新しくサポーター登録してくださり、プール学習を見学する児童の支援などをしてくださっている。</p> <p>○運動会では、より近くで演技を見ることができると好評なので、昨年度までに引き続き保護者の入れ替え制により参観していただいた。入れ替え制の実施や応援団の演技の参観のため、保護者や地域の方に大変ご協力いただいた。</p> <p>○HPの頻繁な更新や学校だよりで、「共育」活動の発信を意識した。</p> <p>○4月初めに学級づくりに関する研修を行い、学級開きに向けて大切にしたいことを確認した。また、研究だより「WAKUWAKU」により、個の取組を共有でき、全体へ広がっている。</p> <p>△登校が難しい児童が数名おり、欠席日数が増えている。個に応じた学校とつながる方法を見つけ、つながりを絶たないようにする。</p> <p>★学校だよりやHPで取組の様子を伝えることにより「共育」を目指す。</p> <p>★コミュニティ・スクールや地域学校協働活動についての教職員研修を行い、理解を深める。</p> <p>【働き方改革】</p> <p>○「子供と向き合う時間の確保ができている」と回答した職員は80.5%と、昨年同時期を8.3%上回った。仕事量の多さは変わらないものの、周囲のサポートにより上昇したものと考えられる。</p> <p>○今年度は生徒指導主事の加配があり、担任が抱え込むことなく、組織</p>

<p>力の向上に取り組んだことにより、4月実施と7月実施を比較すると94%の児童に上昇が見られ、計算力の礎につながっている。△目標値は達成することができたものの、学力差が大きくなっている。学習に課題のある子への指導の在り方について、改善が必要である。授業の中で躰きをみとり、個別指導を充実させていく。</p> <p>★デジタル教材、AIドリルなどを活用して、個に応じた学力の定着を進めていく。</p>	<p>充実を図る。 (2学期…図書まつり)</p> <p>★図書委員だけでなく、教員も読書活動を充実させるために声をかけたり、リプロカードの活用をしたりしていく。</p> <p>★サポーターの方の活動を児童にも具体的に伝えるなどして、読書環境を整えてくださっていることに気付かせる。</p> <p>★教科書に関連した図書や、児童の興味・関心に対応した本を取り入れられるよう、選書の際には複数で選書するようにする。</p>	<p>う、教員間で必要に応じサポートし合いながら取り組んでいく。</p> <p>【生活目標の普及と振り返りの充実】</p> <p>○委員会が目標の設定・願いの共有・取組の実施を主体的に行っていた。毎月中間時点での振り返り、月末の振り返りと表彰を放送することで1か月の中でも達成率が上がったクラスが多かった。△振り返りが形骸化せずより意味あるものにしていくために自己評価の記録や見える化をしていく必要がある。</p> <p>★今年度児童生徒会で重点的に取り組みたい「挨拶」に関する目標月の達成率が低いと、今後執行部を中心に必要な手立てや取組を検討していきたい。</p>	<p>食べてみようと思いが持てるよう励ます。</p> <p>★保護者の食育への関心を高めるため、給食試食会や親子料理教室を開催する。</p>	<p>的に対応できている。問題が起きたときだけでなく、日常的に生徒指導主事が児童と関わることで、問題の早期発見、未然防止につながっている。</p> <p>△在校時間の長い職員が数名おり、固定化しつつある。仕事の偏りの調整をしたり、効率的に仕事を行えるような方法を探ったりする。</p> <p>★業務改善について、職員でアイデアを出し合いながら、効率的な方法を探る。</p>
--	--	---	--	--

F 結果の分析・解釈 (最終 2月) ○…成果 △…課題 ★…来年度に向けた改善方策				
<p><a 主体的に学び続ける児童の育成></p> <p>【評言】</p> <p>○全ての教師が、自己内対話を促す評言を意識した授業・単元づくりに取り組むことができた。</p> <p>○研究授業を通して、他の教師の評言から学びを深めたり、授業力向上推進部で具体的な評言の例を交流したりすることで、各教師が評言への意識を高めることにつながった。</p> <p>△自己内対話は、児童自身の中で起こる変容なため、見えにくい特性がある。そのため、教師の感覚で判断している面がある。振り返りなどの見える部分をきっかけにしながら、評価したり、改善したりするための教師の見方を磨いていく必要がある。</p> <p>★各教師が評言を意識して授業・単元づくりを行うことが、児童の自己内対話、さらには主体的な学びを促すことを認識し、取り組んでいる。来年度も評言の役割を意識して、子どもたちの成長を促す言葉にこだわって指導を継続する。</p> <p>【振り返り】</p> <p>○教師が書く時間を確保したり、振り返りの目的を伝えたりすることで、児童自身が意識して振り返りを書くことに取り組んでいる。</p> <p>○各学年の発達段階に応じて「振り返りのゴール像」などを視覚化し、モデルを提示することで、質の高まりも見られた。</p> <p>△振り返りを書けたり、質の向上も見られたりしているが、振り返りを効果的に生かすことにつながっていない。授業の内容を深めたり、その後の授業につなげたりすることが課題である。</p> <p>★振り返りをきっかけに、授業の内容を深めたり、次の授業につなげたりする「振り返り」の活用の仕方も深めていきたい。</p> <p>【基礎学力の定着】</p> <p>○南っ子タイムで基礎学力の定着を目的とした取り組みを習慣化することができた。</p> <p>△わからない子が、わからないまま次の学習に進んでいることが考えられる。学年末の振り返りに時間をかけて取り組み、理解を確かめることができるよう取り組んでいく。</p> <p>★学力差へ対応する取り組みを検討していきたい。特に、課題のある子に対して、どのような支援や取り組みを行っていくか、南っ子タイムや授業の在り方を検討していきたい。</p>	<p><b 読書活動の推進・充実></p> <p>○肯定的評価は91.6%と高いが、前期(91.9%)と比べるとやや下がっている。</p> <p>○図書祭りでは、図書委員会が中心となり、スタンプリヤーやポップコンテストなど、児童が楽しく主体的に読みたい本を選び、読書できるような取組を行った。</p> <p>○特にポップコンテストでペア学年で紹介し、選んでもらうことが、相手意識をもって活動することにつながった。作った後からも、掲示することで皆の目に触れ、紹介してある本を借りに行こうとする児童や、友達の紹介する本を読み合う姿も見られた。</p> <p>○ポップコンテストのご褒美として児童も選書に関わるなど、選書の工夫をした。</p> <p>○学級で図書ビンゴをしたり、読み聞かせをしたりするなど、係活動に読書活動が広がっていた学級もあった。</p> <p>○児童は隔週の読み聞かせを楽しみにしており、また学期ごとの学級文庫の入れ替え等、サポーターの方の協力がとてもありがたく感じている。</p> <p>○全学年で読書活動を取り入れた単元づくりを行うことができた。</p> <p>○並行読書による物語の紹介だけでなく、ことわざを調べるために辞典を使ったり、社会科や総合的な学習の時間での調べ学習に図鑑を使ったり、図画工作科で絵を描く際にイメージを膨らませるために絵本や物語を活用したりするなど、教師側も図書を学習活動の中に取り入れる工夫を行った。</p> <p>△本が好きな児童は多いが、図鑑や絵だけの本を好むなど、好みに偏りがあり、様々なジャンルを読んでいない。</p> <p>△図書室の本は絵本や高学年向けの文庫本が多く、低学年向けの読みやすい児童書が少ない。</p> <p>★目標は達成できているので、引き続き生活の中に読書活動を取り入れられる活動を継続していきたい。</p> <p>★図書委員会を中心に、児童が図書室や読書が身近に感じられる活動を考えていく。</p> <p>★児童が様々なジャンルの本を読んでいるような工夫をする必要がある。</p>	<p><c 生徒指導体制の確立></p> <p>【異年齢による協調的な関わり】</p> <p>○異学年活動により、上学年はリーダーとしての自覚や相手意識の向上、下学年は憧れにつながっている。また、異学年と関わることで思いやりや感謝などの心情を養うことにもつながっている。</p> <p>○執行部、6年生が中心になり、様々な取組を計画・運営することで、児童が主体的に取り組むことにつながった。</p> <p>△学年実態により近接学年との授業等に関連する交流ができなかった。また、離れた校舎の学年は掃除も単独で行っているため他学年との交流が少なかった。今年度中に生活科や総合的な学習の時間のまとめとして近接学年と交流する時間を設定できそうか検討・実施する。</p> <p>★カリキュラム・マネジメントを行う際には学年実態を踏まえた上で目的を共有し、意図的に異学年交流を設定することで成長の場となるような機会とする。</p> <p>★引き続き執行部を中心にしながら、児童主体の活動を計画的に進めるとともに、活動の目的を児童も教職員も明確にして活動を展開していく。</p> <p>【同学年による協調的な関わり】</p> <p>○各学年で行事に向けて実行委員を立てたり、行事の目的を確認して児童主体で展開したりすることで、成長や達成感を得ることにつながった。</p> <p>○各教科や総合的な学習の時間などで、学級の枠を超えて成果物を交流したり学習を進めたりしたことで、お互いの良さや成長に気づき理解を深めることにつながった。</p> <p>★行事に向けて学年間で取り組む中で、児童自身がみんなで目標に向け取り組んでいる意識をもち絆が深まったと実感できるような声かけや価値付けを行っていく。</p> <p>【生活目標の普及と振り返りの充実】</p> <p>○全校で一つの目標に向かって取り組み、努力しようとする意識が広がってきた。</p> <p>△生活目標達成とみなす評価指標の項目基準が高すぎたり見取りにくかったりする月があった。</p> <p>★月ごとに担当委員会の教員と児童会担当教員が連携し、より適切な達成基準で数値化できるよう評価項目の検討を行う必要がある。</p>	<p><d 体づくりの推進・充実></p> <p>【運動意欲の向上】</p> <p>○肯定的評価が93.1%と、前期(92.1%)よりも、やや上がった。</p> <p>○体育委員会が中心になり、11月に「運動チャレンジ」を行った。体育委員の呼びかけや紹介動画により、多くの児童が参加し、いろいろな運動に楽しく取り組むことができた。</p> <p>○体育朝会で縄跳びの上達のコツや練習方法を伝えたり、持久走大会に合わせて体育委員会と連携し、休憩時間に持久走に取り組もうと働きかけたりしたことで、「やってみよう」という機運を高めることができた。</p> <p>○体育の授業改善のため、楽しく体を動かせる運動のアイデアを紹介したり、体育器具を充実させたりすることができた。</p> <p>△運動に親しみを覚える児童は増えたが、今年度の新体力テストの結果から、「握力」「長座体前屈」「ボール投げ」が男女とも県平均値かつ全国平均値より下回っており、運動経験や体力に偏りがある。</p> <p>★目標は達成できているので、引き続き運動意欲の向上につながる活動を継続していくとともに、バランスの取れた体づくりに向けて内容を工夫していきたい。</p> <p>【食育の充実】</p> <p>○肯定的評価は93.0%となり、前期(91.8%)をやや上回った。</p> <p>○全学年で、発達段階に合わせた食育の授業を実施することができた。特に6学年では、家庭科の授業で栄養教諭と連携して給食メニューづくりに取り組み、栄養バランスを意識することが児童の間に浸透してきた。</p> <p>○給食委員会と連携し、劇や放送でバランスよく食べることや感謝して食べることの大切さを分かりやすく伝えることができた。</p> <p>○給食試食会や親子料理教室を開催し、多くの保護者に本校の取組を紹介することができ、意識の啓発につながった。</p> <p>△特に偏食の強い児童には、保護者に個別に声をかけ、栄養相談を行ったが、家庭の協力を得にくい場合もある。今後も個別に支援していく必要がある。</p> <p>△よく食べる児童で、残さずに食べるという意識は強いが早食いになり、よく噛んで食べていない児童が見受けられる。</p> <p>★引き続き、食育授業や給食の時間の指導を通して、バランスの良い食事を意識づけていくとともに、よく噛んで食べることも意識させていきたい。</p>	<p><e 信頼される学校づくり></p> <p>【教育活動の満足度】</p> <p>○教育活動の充実のため、日常的にサポーターに協力いただいている。今年度も、国語や算数等の学習に加え、調理実習やミシンでの裁縫、カッターナイフを使う図画工作、総合的な学習の時間に意見を伺う学習など、サポーターに支援していただくおかげで、教職員だけでは実現しない、安心・安全な学習や地域人材を生かした深い学習につながることができた。</p> <p>○南っ子フェスやごままつりなど、保護者やCSの方が子どもたちのために連携している姿は、児童に好影響を与えている。</p> <p>○1年を通して、各分掌部や委員会が中心となり、様々な取組を実践してきた。また、各学級でも、日々授業づくりや学級づくりを行ってきた積み重ねにより、教育活動に対する満足度が保たれている。</p> <p>△担任や学年団、生徒指導主事などで関わっているが、不登校児童やしぶり傾向のある児童が一定数いる。学校とのつながり方について、個の合った方法を探っていく。</p> <p>△職員ではCSについて研修を行ったが、サポーターと共に研修することができなかった。</p> <p>★地域と教職員で協働した取組を進めながら、信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>★「共育」活動の充実のため、ホームページや学校だよりを活用し、学校の取組を発信していく。</p> <p>【働き方改革】</p> <p>○印刷業務等のサポート、教職員間のサポート等で支えてもらっている意識があることで、精神的なゆとりを感じている教職員が多い。</p> <p>○仕事に優先順位をつけたり、時程や研修、会議などの設定を工夫したりすることで、時間を生み出している。</p> <p>△スクラップ&ビルドについての肯定的回答が低い。</p> <p>△授業準備は持ち帰りになりがちなことや、支援が必要な児童が多く時間が足りないということから、子どもと向き合う時間はあるが十分ではないと感じている教職員もいる。</p> <p>★さまざまな工夫により子どもと向き合う時間を確保しようとする努力はしているものの、向き合うことができていない満足できていない実態もある。引き続き業務改善について、教職員全体で意見を出し合いながら進めていく必要がある。</p>
<p><学校の大きな方向性に照らして></p> <p>コミュニティ・スクールの推進・充実を基盤とした「共育」の理念のもと、「命の教育」の充実と組織的な生徒指導体制を図った。「自分が学ぶ みんなと学ぶ」という学校教育目標を意識した各部の取組を横断的につなげることは、教育活動の一体化につながり、児童の育成に効果的であったと考える。</p>				
<p><学校運営協議会委員による評価></p> <p>・目標、方策、設定の適切さ (A) ・評価(結果)の適切さ (A) ・分析、解釈の適切さ (A) ・改善方策の適切さ (A) → 総合評価 (A)</p>				



<p>学校関係者評価を受けての改善方策 (修正)</p> <p><学校の大きな方向性に照らして></p> <p>学校自己評価に対して、学校運営協議会委員からは、全体を通しておおむね「A:適切である」との評価であった。「自分が学ぶ みんなと学ぶ ～かしこくやさしくたくましく～」という学校教育目標を達成するために「命の教育」を基盤に据え、各分掌部の取組を横断的にリンクさせることを大切にしながら取り組んだことが成果に繋がったと考える。しかし「算数科の単元末テストで正答率70%以上の児童85%」や「生活目標を意識している児童80%」などの項目について目標値に到達していないという状況もあり、今後より効果的かつ具体的な手立てが必要となる。また、主体的な学びを促すための「振り返り」の効果的な活用や充実感を得ることができると期待する授業づくりや探究的な学びの充実には重点的に取り組む必要がある。さらに、不登校児童の減少を目的とした組織的な生徒指導体制の確立も引き続き行っていく必要がある。</p> <p>本校の生命線であるコミュニティスクール運営やサポーター活動は、地域や保護者が主体的かつ組織的に動いてもらっていることにより成立しており、その輪がさらに広がり充実するよう学校としても工夫した連携協働を行い、学校経営理念の「共育(共に育つ)」の具現化をめざす。</p>
